

アメリカ大統領選挙のコミュニケーション —オバマは何を語ったか—

—How Obama Spoke to America in the U.S. Presidential Election —

市島清貴

ICHISHIMA, Kiyotaka

はじめに

アメリカ合衆国の大統領選挙は、国民が一票を投じて直接的に選ぶ点において日本の内閣総理大臣の選挙制度と根本的に異なる。アメリカの候補者たちはおよそ一年半に亘って国民に直接語りかけ、時に候補者同士でディベートを行い、自身の政策の優位さを訴える。その長き戦いを制する者は、言葉の力によって、国民を触発し、国民と一体になって良い国作りをしようとの訴えが通じた者だ。

今次の大統領選は、2008年11月4日（現地時間）投開票され、民主党のバラク・フセイン・オバマ・ジュニア（Barack Hussein Obama, Jr.）が共和党のジョン・シドニー・マケイン3世（John Sidney McCain III）に勝利し、第44代アメリカ合衆国大統領当選者（President-elect）となった。オバマ自身の著書『The Audacity of Hope』（オバマ、2006）によれば、氏は1961年ハワイ州生まれ。ハワイやインドネシアで育ち、コロンビア大学、ハーバード大学法科大学院で学び、弁護士として活躍する。1997年イリノイ州議会議員、2004年連邦上院議員に当選。アメリカ大統領選挙で当選したため、任期を約2年残して上院議員を辞任した。

本稿では、熾烈な大統領選挙を勝ち抜いたオバマの出馬表明のスピーチを解説する。彼が長きに亘って繰り広げた選挙戦の出発点で、国民に向けた最初のメッセージは何であったのか。

1. 国民が直接選ぶ間接選挙

アメリカ大統領選挙は、確かに国民が一般投票で候補者に一票を投じて候補者を選ぶ点においては「直接的」である。しかし、その選挙制度は複雑であり、選挙人が最終的に投票をする「間接選挙」と言われている。

米大統領選は、4年に1度、夏季五輪の年に開かれる。民主・共和両党の大統領候補は、両党が今年8～9月にそれぞれ開く党全国大会で正式指名される。大統領候補を指名するのは、各州で実施される予備選(primary)や党員集会(caucus)を通じて選出された代議員。指名を争う候補は、予備選・党員集会で勝利し、代議員を獲得しなければならない。指名を得るには最終的に代議員数の過半数が必要。代議員数は民主が4049人、共和が2380人で、勝敗ラインは民主が2025人、共和が1191人となる。

予備選は通常、投票形式をとる。一方、党員集会は地区ごとに設けられた集会所で、討議や挙手で多数決をとる。どちらを採用するかは、各州の判断にゆだねられている。各党、各州の規則や法律が絡み合うことか



ら、参加資格や選出手続きなど実施方法の細目も、それぞれ微妙に異なる。

本選の一般投票は、「11月第1月曜日の次の火曜日」に実施される。形式的には間接選挙で、各州の上下両院の定数の合計（535人）と首都ワシントンの特別枠（3人）を合わせた計538人の「選挙人(electoral college)」が決まり、この結果、最も多くの選挙人を獲得した候補が当選する。全米50州中、ネブラスカ、メイン両州を除く48州が、得票1位の候補がその州の選挙人を独占する「勝者総取り」方式をとる。12月に各州都と首都ワシントンで選挙人投票が形式上、実施される。選挙人は必ず自身の党候補に投票するため、実際には一般投票で当選者が決まる（『読売新聞』2008年2月7日）。

今次の大統領選における全米50州と特別区的首都ワシントンの集計が終了し、最終的な獲得選挙人が確定したのは、11月19日（現地時間）であり、「次期大統領に決まった民主党のバラク・オバマ前上院議員（47）の獲得選挙人数は365となり、92年に当選したクリントン前大統領（獲得選挙人370）に迫る地滑り的な勝利となった。マケイン氏の獲得選挙人は173だった」（『毎日新聞』2008年11月22日）。

2. 語ることは統治すること

米国では公的な説得技法の重要性から100年以上も政治コミュニケーションが研究されてきた。「語ることは統治するというレトリックの大統領制の伝統が根付いている。大統領は、自ら語ることで、現状分析を示すとともに将来のビジョンを提示して、世論の支持を形成し、国民を正しい方向へ導く。選挙キャンペーンは、候補者同士の言葉を用いた説得の技巧、レトリックの戦いでもある」（鈴木、2004:158）。アメリカ人は日本人とは比較にならないほど政治討論集会に参加したり政治テレビ番組やインターネット放送を視聴したりする。「10月2日に行われた副大統領候補ディベートの視聴率が発表され、全米で7300万人がこのディベートを見たという。全米の人口はほぼ3億人。ほぼ4人に1人が見たことになる。これを超えるディベート視聴率は1980年のカーター対レーガンの8100万人という記録しかない」（『The Washington Post』2008年10月6日）。政治家はレトリック、スピーチ技法を研究したディベーターであり、国民は聴衆として、あるいはテレビの視聴者としても彼らの語る言葉に耳を傾け、審査し、評価し、そして勝者を決定するディベートジャッジである。

3. スピーチライターが存在

基本的に大統領候補者は、専属のスピーチライターたちとチームを組んで共同でスピーチ原稿を執筆すると言われる。オバマは演説が得意だけでなく、スピーチ原稿の多くを自身で執筆するといわれているが、選挙キャンペーン中は、3人の専属スピーチライターの手によって大半の原稿が作られていた。「責任者のジョン・ファブロー氏（26歳）、アダム・フランケル氏（26歳）、ベン・ローズ氏（30歳）は、1日にいくつもの州を移動しながら、飛行機やバス、ホテルで執筆する。（中略）クリントン元大統領のチーフ・スピーチライター、デービッド・クスネットは、オバマのスピーチを賞して、具体的な公約をぶち上げるわけでもないのに、複雑に入り組むさまざまな社会層を同時にひきつける。オバマ氏の人柄もさることながら、時に『歴史的』と形容される名演説を書いている」（斉藤、2008）と述べている。

1960年に就任したジョン・F・ケネディの大統領就任演説は、キング牧師の演説と並び高く評価され、20世紀のアメリカを代表する名演説として有名である。オバマのスピーチライターの

一人、フランケルは、ケネディの特別顧問スピーチライターとして有名な「セオドア・ソレンセンの薫陶を受けた弟子(protégé)」(『The New York Observer』2008年7月25日)である。

4. 出馬表明演説

2008年11月4日深夜(現地時間)オバマの地元イリノイ州シカゴで大統領選勝利宣言のスピーチをし、「この選挙で私たちが起こした行動により、米国に変革の時がきたと勝利を宣言し、『人民の人民による人民のための政治』は、なお滅びていないと証明した。あなたたちの勝利だと述べ、草の根の選挙運動を支えたボランティアの努力をたたえた」(『朝日新聞』2008年11月7日)。勝利宣言では、改めて「変革」というキャッチフレーズを強調し、リンカーン大統領の名演説からの引用があった。彼の大統領選キャンペーンの出発点であった2007年の出馬表明演説においてもどのように言及されていたか、詳しくは以下の解説で述べる。

選挙戦における彼のスピーチ原稿は、オバマ自身の公式ホームページ(Barack Obama and Joe Biden The Change We Need, 2008)に全文を掲載してある。また、音声付映像もAdobe Flash Playerを使って観ることができる。以下に掲載するスピーチは、2007年2月10日にイリノイ州スプリングフィールドで1万5千人の支持者を前に行ったと公表されている原稿(Senator Barack Obama's Announcement for President, 2007)を基に、オバマがアドリブで話したことを映像から筆者が聞き取り加えた。英文の下には筆者による翻訳と必要に応じて解説を与えた。

① * [Look. Look at all of ya. Look at all of you. Goodness, oh, thank you so much. Giving... uh, Praise an honor to God for bringing us here today. I am, I'm so grateful to see all of ya. You guys, still chanting back there?] Let me begin by saying thanks to all you who've traveled, from far and wide, to brave the cold today. * [I know it's a little chilly, but I'm fired up.] We all made this journey for a reason. It's humbling, [to see a crowd like this,] but in my heart I know you didn't come here just for me, [you know,] you came here because you believe in what this country can be. * In the face of war, you believe there can be peace. In the face of despair, you believe there can be hope. In the face of a politics that's shut you out, that's told you to settle, that's divided us for too long, you believe we can be one people, reaching for what's possible, building that more perfect union.

(筆者訳) [本当に、すごいな…。素晴らしいよ…。本当にありがとう…。私たちをここに連れてきてくださった神をたたえましょう。みんなに会えたことに感謝します。君たち後ろの方でまだ声を張り上げてんのかい。] 先ずはじめに、本日は寒さをもともせず、各方面からお越しく下さいましたすべての皆さんにお礼を申し上げます。[少し肌寒いですが、私は燃えるように興奮しています。] 私たちは皆、ある理由があってここに辿り着いたのです。このような多くの皆さんにお会いして恐縮しているのですが、本当のところ私のために来た訳ではないことは分かっています。皆さんがここに来た理由は、この国ができることを信じているからです。戦争に直面しても、平和が訪れる可能性を信じ、絶望に直面しても、希望があると信じているからです。皆さんを締め出し、そこから動かないよう命じて、長期に亘って私たちを分断してきた政治に直面しても、私たちは同じ一つの国民であると信じ、実現可能なことに手を伸ばしながら、さらに結束がより完璧なものになると信じているからです。

《解説》* []の中はオバマが原稿にはないことをアドリブで言ったこと。(以下同じ)

*In the face of というフレーズを効果的に繰り返し使う。キング牧師 (Martin Luther King, Jr.1929-1968 年) が、ワシントン大行進においてリンカーン・メモリアルで行ったスピーチでは、”I have a dream.”と繰り返し強調し、印象付ける手法を取ったが、オバマは意識的に公民権運動の先駆者でアフリカ系アメリカ人であるキング牧師を相当意識し、真似たと思われる。①参照

② That's the journey we're on today. But let me tell you how I came to be here. As most of you know, I am not a native of this great state. I moved to Illinois over two decades ago. I was a young man then, just a year out of college; I knew no one in Chicago [when I arrived,] was without money or family connections. But a group of churches had offered me a job as a community organizer for [the grand sum of] \$13,000 a year. And I accepted the job, sight unseen, motivated then by a single, simple, powerful idea - that I might play a small part in building a better America.

(筆者訳) その旅は、今日から始まる旅です。しかし、ここで私はどのようにしてこの地にやって来たのかお話ししましょう。大抵の皆さんはご存じでしょうが、私はこの偉大な州の出身ではありません。私は20年以上前に、イリノイ州に移り住みました。当時の私は、若輩であり、大学を卒業してまだ一年でした。[シカゴに着いた時は、] 知り合いはおらず、お金もなく、親類もいませんでした。ですが、教会の団体が、年間13000ドルも払って私に地域社会活動家という仕事を提供したいと申し出がありました。私は、予め調べることもなくその仕事を引き受けましたが、たった一つ単純で強烈な考えによってやる気が湧いてきました。それは、ひよっとしたらより良いアメリカ造りに微力ながら貢献できるのではないかという考えでした。

③ My work took me to some of Chicago's poorest neighborhoods. I joined with pastors and lay-people to deal with communities that had been ravaged by plant closings. I saw that the problems people faced weren't simply local in nature - that the decision to close a steel mill was made by distant executives; that the lack of textbooks and computers in schools could be traced to the skewed priorities of politicians a thousand miles away; and that when a child turns to violence, [I came to realize that] there's a hole in *[that boy's] heart no government alone can fill. It was in these neighborhoods that I received the best education [that] I ever had, and where I learned the true meaning of my Christian faith.

(筆者訳) この仕事で、シカゴの最も貧しい地域を数か所回りました。私は、工場閉鎖で荒廃したコミュニティーの問題に聖職者や一般の信者の方々とともに取り組みました。人々が直面した問題とは、本質的に単に地域の問題ではないことが分かりました。例えば製鋼所を閉鎖する決定は、遠方にいる経営幹部が下すものであり、学校で教科書やコンピューターが不足するのも、千マイルも遠方にいる政治家たちの歪んだ優先順位の付け方に原因があるかもしれないのです。さらに、子どもが暴力に走った時に、その子の心に開いた穴は行政の力だけではふさぐことはできない[ことが分かってきました]。このような地域でこそ、私はこれまで受けた中で最高の教育を受け、また、自分がキリスト教徒であることの、本当の意味を学びました。

《解説》*[that boy's]、原稿では his となっている。

④ After three years of this work, I went to law school, because I wanted to understand how the law should work for those in need. I became a civil rights lawyer, and taught constitutional law, and after a time, I came to understand that our cherished rights of liberty and equality depend on the active participation of an awakened electorate. It was with these

ideas in mind that I arrived in this capital city as a state Senator.

(筆者訳) この仕事を3年続けた後、私はロースクールに入学しました。それは、困窮した人々のために、法律がいかに機能すべきか、理解したいと思ったからです。私は公民権専門の弁護士となり、憲法学を教えました。しばらくして、自由や平等という私たちの大切な権利は、意識高い有権者の積極的な参加にかかっていることを理解してきました。このような考えを抱き、私は州議会議員としてこの州都にまいりました。

⑤ *It was here, in Springfield, where I saw all that is America converge - farmers and teachers, businessmen and laborers, all of them with a story to tell, all of them seeking a seat at the table, all of them clamoring to be heard. I made lasting friendships here - friends that I see in the audience [here]today.

(筆者訳) ここスプリングフィールドの地で、私は、アメリカというものの全てが集結しているのを見ました。農業経営者、教員、ビジネスマン、労働者、彼ら全てに伝えたいストーリーがあり、全員と一緒にテーブルの椅子につくことを求め、自分たちの叫びを聞いてもらいたがっています。私はこの地で生涯の友を得ました。それは今日、この聴衆の中にいる友人たちのことです。《解説》*It was here, in Springfield, または It was here のフレーズは別のパラグラフでも好まれて使われている。⑥、⑧参照

⑥ It was here [where] we learned to disagree without being disagreeable - that it's possible to compromise so long as you know those principles that can never be compromised; and that so long as we're willing to listen to each other, we can assume the best in people instead of the worst.

(筆者訳) 私はこの地で、不愉快な思いをせずに異議を唱えられるようになりました。決して妥協できない何点かの信条さえ理解しておけば、他で妥協することも可能となります。進んでお互いの話に耳を傾ける態度を持っていれば、最悪ではなく最良の話し合いを相手に期待することができます。

⑦ *That's why we were able to reform a death penalty system that was broken. That's why we were able to give health insurance to children in need. That's why we made the tax system [right here in Springfield] more fair and just for working families, and that's why we passed ethics reforms that the cynics said could never, ever be passed.

(筆者訳) だからこそ、私たちは機能していなかった死刑制度を改革することができたのです。だからこそ、私たちは貧しい子どもたちに健康保険を与えることができたのです。だからこそ、私たちは、まさにこの地スプリングフィールドで、勤労者家族の税制をより公平で公正なものにしたのです。だからこそ、私たちは皮肉屋が決して可決できる訳がないと言った倫理改革法案を、可決したのです。

《解説》* that's why we (だからこそ、私たちは) というフレーズを効果的に繰り返して使う。

①の注釈参照

⑧ It was here, in Springfield, where North, South, East and West come together that I was reminded of the essential decency of the American people - where I came to believe that through this decency, we can build a more hopeful America.

(筆者訳) 私が、アメリカ国民の根本的な良識さに気付かされたのは、東西南北どこからも訪れることのできるこの地スプリングフィールドにおいてです。ここで私は、この良識を持ってすれ

ば私たちはより希望に満ちたアメリカを築くことができると信じようになりました。

⑨ And that is why, in the shadow of *the Old State Capitol, where *Lincoln once called on *[a house divided] to stand together, where common hopes and common dreams still *[live], I stand before you today to announce my candidacy for President of the United States. (盛大な拍手がしばらく続く)

(筆者訳) だからこそ、かつてリンカーンが分裂した家に結束するように求め、そして今も共通の希望と共通の夢が[息づく]この旧州議会議事堂の間近で、私は皆さんの前で、本日アメリカ合衆国大統領に立候補することを宣言いたします。(ここで、オバマ氏は、初めて公式に大統領選挙に立候補することを宣言した。)

《解説》*the Old State Capitol イリノイ州スプリングフィールドにある旧州議会議事堂。この旧州議会でリンカーンは下院議員を 1834 年から二期務めた。現在は観光施設として見学ができる。*Lincoln エイブラハム・リンカーン(Abraham Lincoln, 1809-1865 年)。ケンタッキー州生まれ、1830 年にイリノイ州に転居。1846 年にホイッグ党员として合衆国下院議員に選出。1837 年法曹界入り。第 16 代アメリカ大統領 (任期 1861-1865 年)。「偉大な解放者」「奴隷解放の父」などとも称される (西塚、2008)。

◎ディベート教育の専門用語で、一人対一人で行うディベート形式を「リンカーン・ダグラス」という。1858 年にリンカーンと民主党のステューベン・ダグラスとのイリノイ州の連邦上院議員選における 7 回の公開討論会は「リンカーン・ダグラス論争」として全国的な注目を集めた。オバマはリンカーンのディベートやスピーチ技法に深い関心を示している。

*a house divided (オバマは、a divided house というべき所を a house divided と言った) は、リンカーンの演説 (1858 年 6 月の共和党大会、同年 7 月共和党からの上院議員候補指名の受諾演説) の中で引用されている言葉で、もともとは新約聖書のマルコの福音書から引用された。"And if a kingdom be divided against itself, that kingdom cannot stand. And if a house be divided against itself, that house cannot stand." (24 節 国が内輪で争えば、その国は成り立たない。25 節 家が内輪で争えば、その家は成り立たない。) リンカーンはいろいろな演説の中で、たびたび聖書を引用して語っている。「1858 年 6 月の共和党大会では「分かれて争う家は立たず」(マコ 3:25) と党の一致を訴え、また第 2 次大統領就任演説 (1865 年 3 月 4 日) では「額に汗して得たパン」(創 3:19)、「他人を裁くな」(マタ 7:1)、「この世の蹟き」(マタ 18:7)、「主の裁きは真実」(詩 19:10) などの言葉を引用し、この演説は教会での説教を思わせる」(高木・斎藤、1988)。村上 (2008) などは、「自分の上院議員としての地盤であり、若き日のエイブラハム・リンカーンが居を構え、国政選挙への挑戦を行った土地としても知られ、「分裂した国家」を取り上げた有名なスピーチから引用したことを評価」するコメントを発表している。

*[live]単なる誤植でスクリプトになかったのか。

⑩ [Now, listen... Thank you. Thank you...] I recognize there is a certain presumptuousness [in this] - a certain *audacity - to this announcement. I know [that] I haven't spent a lot of time learning the ways of *Washington. But I've been there long enough to know that the ways of Washington must *change.

(筆者訳) [ちょっと聞いてください。有難う。有難う。] 私はこの種の表明は、幾分おこがましくもあり、大胆な行為だと理解しています。首都ワシントンのやり方や政界のことを多くの時間をかけて学んできた訳ではないことも承知しています。しかし、私はそこに滞在中に十分に理解

できたのは、ワシントンのやり方は変わるべきであるということです。

《解説》*audacity は、大胆、勇敢、図々しさ、厚かましき、図太さ、無謀などと訳される。このスピーチとの直接の関連性はないと思われるが、オバマは、2006年に著書『The Audacity of Hope』を出版し、「大胆に希望」を語っている。「上院議員であり弁護士、教授であり父親、クリスチャンであり懐疑論者、そしてなによりも歴史と人間性を勉強する者と自身を称し、アメリカの家庭における経済への不安の増加、国内で発生する人種や宗教間の緊張関係、そして、テロや世界的流行病など、国境を越えて近づいてくる脅威について検討する。そして、民主主義における信念の役割、どこで必要となり、どこからは介入できないのかという問題に取り組んでいる。著者の語る家族、友人、上院議員、そして大統領の話の根底にあるのは、つながりに対する強い探求心である。それが、本質的に前途有望な政治的コンセンサスの基礎になる」(オバマ、2006)。

*Washington ワシントン州ではなく、ワシントン DC、つまりアメリカ政府のこと

*change ここから”change”「変革」というキャッチフレーズを使い始めた。

⑪ The genius of our founders is that they designed a system of government that can be changed. And we should take heart, because we've changed this country before. *In the face of tyranny, a band of patriots brought an Empire to its knees. In the face of *secession, we unified a nation and set the captives free. In the face of Depression, we put people back to work and lifted millions out of poverty. We welcomed immigrants to our shores, we opened railroads to the west, we landed a man on the moon, and we heard *a King's call to let justice roll down like waters, and righteousness like a mighty stream.

(筆者訳) 建国の祖たちの偉大さは、政治制度が後に変更可能となるような設計をした点にあります。さあ、勇気を出しましょう。なぜなら、私たちは以前からこの国を変革してきたのですから。専制政治に直面しても、愛国者の一団は大英帝国を服従させました。脱退に直面しても、私たちは国家を統一し、奴隷を解放しました。世界大恐慌に直面しても、私たちは人々を再び職に就かせ、何百万もの人々を貧困から救出しました。私たちは我が国への移民を歓迎し、鉄道を西部まで敷き、人類を月に上陸させました。さらに、正義が川の水のごとく滔々と流れ、公正さが力強い本流のごとく流れさせよという、キング牧師の叫びを耳にしたのです。

《解説》*In the face of というフレーズを効果的に繰り返して使う。①参照

*secession 「脱退の意」1861年に奴隷制存続を支持するアメリカ南部諸州の内11州が合衆国を脱退した(ウォレン、1997)。

*a King's call キング牧師(Martin Luther King, Jr.1929-1968年)が、ワシントン大行進においてリンカーン・メモリアルで行ったスピーチの一節の”We will not be satisfied until justice roll down like waters, and righteousness like a mighty stream.”から引用された(伴、1983)。それは、もともとキング牧師も旧約聖書から引用したものであった。「公道を水のように正義をつきない川のように流れさせよ(旧約聖書アモス書5章24節、祭りにまさる正義について書かれた一節)。アモスとは紀元前8世紀のイスラエルの予言者のひとり。ここでいう公道は通行の道ではなく、正しい人の道、正義の道を指す」(新教出版社、2001)。①参照

⑫ [We've done this before.] Each and every time, a new generation has risen up and done what's needed to be done. Today we are called once more - and it is time for our generation to answer that call. For that is our unyielding faith - that in the face of impossible odds, people who love their country can change it.

(筆者訳) [私たちは、以前にもこれができたのです。] いつの時でも新たな世代が立ち上がり、なすべきことをしてきました。今日再び私たちは呼びかけられています。その呼びかけに答える時がきました。なぜならそれは私たちの不屈な信念だからです。不可能に思えることに直面しても国を愛する国民ならば国を変革できるのです。

⑬ That's what Abraham Lincoln understood. *He had his doubts. He had his defeats. *[He had his skeptics.] He had his setbacks. But through his will and his words, he moved a nation and helped free a people. It is because of the millions who rallied to his cause that we are no longer divided, North and South, slave and free. It is because men and women of every race, from every walk of life, continued to march for freedom long after Lincoln was laid to rest, that today we have the chance to face the challenges of this millennium together, as one people - as Americans.

(筆者訳) そのことは、エイブラハム・リンカーンは理解していたのです。彼は疑念を抱いていました。敗北を経験しました。[彼を疑う人がいました。] 挫折もありました。しかし、彼の意志と言葉を通して、彼は国家を動かし、国民を解き放しました。それは、何百万もの人々が、北と南が、奴隷と自由が、二度と分裂されないという彼の正義に結集したからこそです。あらゆる人種の男女が、あらゆる職業の人々が、リンカーン亡き後長きに亘って、自由を求めて歩み続けてきたからこそです。今日私たちは、今後千年間の難問に直視する機会を持ちました。ひとつの国民として、アメリカ人として。

《解説》*He had his というフレーズを効果的に繰り返して使う。

⑭ All of us know what those challenges are today - a war with no end, a dependence on oil that threatens our future, schools where too many children aren't learning, and families struggling paycheck to paycheck despite working as hard as they can. We know the challenges. We've heard them. We've talked about them for years.

(筆者訳) 私たちは皆、その難問というものが今日何であるのか分かっています。終わりの見えない戦争、私たちの未来を脅かす石油の依存、学校で勉強していない子供たちが多すぎること、一生懸命働いても「受け取った給与でかろうじて次の給与日まで」生活せざるを得ない家族がいることです。この難問を私たちは知っています。聞いています。何年間も話し合っています。

⑮ What's stopped us from meeting these challenges is not the absence of sound policies and sensible plans. What's stopped us is the failure of leadership, the smallness, [the smallness] of our politics - the ease with which we're distracted by the petty and trivial, our chronic avoidance of tough decisions, our preference for scoring cheap political points instead of rolling up our sleeves and building a working consensus to tackle [the] big problems [of America].

(筆者訳) 私たちがこの難問に立ち向かえなかったのは、健全な政策や賢明な計画が不在だったからではありません。指導力の不足と政策が小規模で行われたことが原因です。狭量で瑣末なこと、困難な決定も慢性的に長期間回避してしまうこと、少しでも政治上のポイントを稼ぎたいと思う気持ちが、容易に邪魔をしてしまうのです。アメリカの重要案件に取り組むためにシャツの袖をまくりあげ、本気になって意見の合意形成をしようとしません。

⑯ For the last six years *we've been told that our mounting debts don't matter, we've been told that the anxiety Americans feel about rising health care costs and stagnant wages are an

illusion, we've been told that climate change is a hoax, and that tough talk and an ill-conceived war can replace diplomacy, and strategy, and foresight. And when all else fails, when Katrina happens, or the death toll in Iraq mounts, we've been told that our crises are somebody else's fault. We're distracted from our real failures, and told to blame the other party, or gay people, or immigrants.

(筆者訳) 私たちは過去6年間、増大した借金は問題ないと言われてきました。増加する医療コストや停滞した賃金に対するアメリカ人が感じている不安は錯覚だと言われてきました。気候変動はでっちあげだと、そして難しい話し合いや準備不足で始めた戦争も、外交や戦略、展望を転化させることができると言われてきました。そしてすべてが失敗に終わった時、ハリケーン・カトリーナが発生した時、またはイラクでの死者数が増加した時、これらの危機は誰かほかの人が失敗したからだと言われてきました。私たちは、本当は誰の失策だったかを惑わされていたのです。さらにもう一の政党やゲイの人々や移民を責めるように言われてきたのです。

《解説》* we've been told that (～と言われてきた) というフレーズを効果的に繰り返して使う。

⑰ And as people have looked away in disillusionment and frustration, we know what's filled the void. The cynics, and the lobbyists, and the special interests who've turned our government into a game only they can afford to play. They write the checks and you get stuck with the bills, they get the access while you get to write a letter, they think they own this government, but we're here today to take it back. The time for that [kind of] politics is over. [It is true.] It's time to turn the page [right here and right now]. (盛大な拍手と「オバマ・コール」がしばらく続く)

(筆者訳) 人々が幻滅や落胆から視線をそらしたとき、私たちは何が喪失感を満たしているのかを分かりました。皮肉屋、ロビイスト、そして特別な利害関係者でした。彼らは私たちの政府をゆとりのある彼らだけが参加できるゲームに目を向けさせたのでした。彼らが小切手を書くと、あなた方は請求書で身動きとれません。彼らは大物といわれる人と接近できるでしょうが、あなた方はせいぜい手紙を出すだけになります。彼らはこの政府を所有したと思っていますが、私たちはこの手に取り戻すために、今日、この場にいるのです。ページをめくる時が来ました。

⑱ [Now, look. Thank you... Thank you... Look. Look.] We've made some progress already. I was proud to help lead the fight in Congress that led to the most sweeping ethics reform since Watergate.

(筆者訳) [いいですか…。有難う…。] 私たちはすでに幾分前進しているのです。ウォーターゲート事件以来、私は国会で最も全面的な倫理規定改定に向けた戦いをリードしてきたことを誇りに思っています。

⑲ But Washington has a long way to go. And it won't be easy. That's why we'll have to set priorities. We'll have to make hard choices. And although government will play a crucial role in bringing about the changes we need, more money and programs alone will not get us where we need to go. Each of us, in our own lives, I will have to accept responsibility - for instilling an ethic of achievement in our children, for adapting to a more competitive economy, for strengthening our communities, and sharing some measure of sacrifice.

(筆者訳) しかしワシントンへの道のりは長いものです。それは簡単なものではありません。だからこそ、私たちは優先順位をつける必要があります。難しい選択を行わなければなりません。

政府は私たちの必要とする変革をもたらすことに重大な役割を果たす訳ですが、お金と事業が増えさえすれば、私たちが進むべき場所に到達できるとは限りません。私たちの生活において、子どもたちに達成感を味あわせ、より競争的な経済に適応できるようになり、地域社会を強化させて、そしてある程度の犠牲も払うという責任を私たち一人ひとりが持つべきでしょう。

⑳ So *let us begin. Let us begin this hard work together. Let us transform this nation. Let us be the generation that reshapes our economy to compete in the digital age. Let's set high standards for our schools and give them the resources they need to succeed. Let's recruit a new army of teachers, and give them better pay and more support in exchange for more accountability. Let's make college more affordable, and let's invest in scientific research, and let's lay down broadband lines through the heart of inner cities and rural towns all across America. [We can do that.]

(筆者訳) これから始めましょう。ともにこの厳しい仕事を始めましょう。この国家を変革しましょう。私たちは、デジタル時代に競争できるように経済を作りかえる世代となりましょう。学校教育に高い水準を設定し、成功するために必要な資源を提供しましょう。教員を大量に新しく採用して、より重い責務を与え、見返りに今以上の賃金と援助を与えましょう。大学の教育費を下げましょう。科学研究に投資をしましょう。アメリカ中の都市から田舎町に至るまでの中心部にブロードバンド回線を敷設しましょう。[私たちならできるのです。]

《解説》繰り返しを好むオバマは、*let us (Let's)を10回繰り返した。

また、Let us be the generation that 「私たちは～を行う世代になりましょう」というフレーズがこれに続き7段落に以下のように8回使われている。なお段落内の他の文は紙幅の都合で省略してある。

㉑ And as our economy changes, let's be the generation that ensures our nation's workers are sharing in our prosperity.

Let's be the generation that ends poverty in America.

Let's be the generation that finally tackles our health care crisis.

Let's be the generation that says right here, right now, that we will have universal health care in America by the end of the next president's first term.

Let's be the generation that finally frees America from the tyranny of oil.

Let's be the generation that makes future generations proud of what we did here.

Most of all, let's be the generation that never forgets what happened on that September day and confront the terrorists with everything we've got.

Let us be the generation that begins this work.

(筆者訳) そして私たちの経済を変えながら、本国の労働者たちが繁栄を分かち合えると約束できる世代になりましょう。

アメリカの貧困を終焉させる世代になりましょう。

医療制度の危機をついに取り組む世代になりましょう。

今この場所で、次期大統領の最初の任期終了までに、アメリカに国民皆保険制度を導入すると宣言する世代になりましょう。

石油の圧政からアメリカをついに解放する世代になりましょう。

私たちがここで行ったことを未来の世代が誇らしく思ってもらえる世代になりましょう。

とりわけ、あの 9 月の出来事 (9.11) と私たちが全力でテロリストと対決していることを決して忘れない世代になりましょう。

この仕事を始める世代になりましょう。

⑳ **But all of this cannot come to pass until we bring an end to this war in Iraq. *Most of you know I opposed this war from the start. I thought it was a tragic mistake.** Today we grieve for the families who have lost loved ones, the hearts that have been broken, and the young lives that could have been. America, it's time to start bringing our troops home. It's time to admit that no amount of American lives can resolve the political disagreement that lies at the heart of someone else's civil war. That's why I have a plan that will bring our combat troops home by March of 2008. Letting the Iraqis know that we will not be there forever is our last, best hope to pressure the Sunni and Shia to come to the table and find peace.

(筆者訳) しかし、イラク戦争を終わらせない限りすべてを実現することはできません。大抵の方は、私が最初からこの戦争に反対していたことを知っています。私はこの戦争が悲劇的な過ちだと思っていました。今日、私たちは愛する人を失った家族に、壊れてしまった心に、失われた若い命に、胸を痛めています。アメリカは、兵士たちを家庭に戻す時が来たのです。他の国の内戦の中心にある政治的意見対立は、アメリカ人の命をどれだけ犠牲にしても解決できないということを認めるときが来たのです。だからこそ、私は 2008 年 3 月までに戦闘部隊を帰すプランを立てたのです。イラク人に私たちが永久に滞在し続けることはないことを分からせることによって、私たちの最後で最高の希望であるスンニ派とシーア派にテーブルに着かせ和解を見出させたいのです。

《解説》*Most of you know I opposed this war from the start. I thought it was a tragic mistake.オバマは独自の視点でイラク戦争を批判していた。イラク戦争を巡っては彼が他の候補者と最も論点を異にしており、マケイン共和党大統領候補とはもちろん、同じ民主党のヒラリー・クリントン氏とも決定的に違っていた。

(紙幅の都合で省略してある)

㉑ **This campaign has to be about reclaiming the meaning of citizenship, restoring our sense of common purpose, and realizing that few obstacles can withstand the power of millions of voices calling for change.**

(筆者訳) この選挙戦は、公民権の持つ意味を取り戻し、私たちの共通の目的意識を復活させ、変革を求める数百万の声の力の前には障害などほとんどないと、認識させるものでなければなりません。

㉒ **By ourselves, this change will not happen. Divided, we are bound to fail.**

But the life of *a tall, gangly, self-made Springfield lawyer tells us that a different future is possible. He tells us that there is power in words. He tells us that there is power in conviction. That beneath all the differences of race and region, faith and station, we are one people. He tells us that there is power in hope.

(筆者訳) 私たちだけでは、この変革は起きません。分裂したままでは、必ず失敗することになります。しかし、のっぽの、たたき上げのスプリングフィールドの弁護士は、私たちに別の未来もあることを教えています。彼は教えています。言葉には力があると。信念には力があると。人

種と地域の違い、信仰と社会的地位の違い、あらゆる違いのもとに、私たちは一つの国民なのです。彼は教えています。希望には力があると。

《解説》*a tall, gangly, self-made Springfield lawyer は、第 16 代大統領リンカーンのこと。オバマも弁護士であるのでこの表現を使ったと思われる。「苦労人でたたき上げ、歴代大統領で一番背が高い(193cm)」(西塚、2008)。

⑳ As Lincoln organized the forces arrayed against slavery, he was heard to say [this]: "Of strange, discordant, and even hostile elements, we gathered from the four winds, and formed and fought to battle through." That is our purpose here today. That's why I'm in this race. Not just to hold an office, but to gather with you to transform a nation.

(筆者訳) リンカーンが奴隷制に反対して軍を編成した時、こう言ったそうです。「奇妙で、不仲の、敵対的ですからある分隊が、四方から集まって軍を編成し、戦い抜いた」と。それが今日、ここにいる私たちの目的なのです。だから私はこのレースに参加しているのです。大統領職に就くためだけでなく、皆さんとともに国を変革させるために。

㉑ [I want...] I want to win that next battle - for justice and opportunity. I want to win that next battle - for better schools, and better jobs, and [better] health care for all. I want us to take up the unfinished business of perfecting our union, and building a better America.

(筆者訳) 私はこの次の戦いに勝ちたいのです。正義と機会のために。私はこの次の戦いに勝ちたいのです。全ての皆さんの、より良い学校、より良い仕事、より良い医療制度のために。私たちの団結を完成させ、より良いアメリカを築くという未完成の仕事に取り組みましょう。

㉒ And if you will join me in this improbable quest, if you feel destiny calling, and see as I see, a future of endless possibility stretching [out] before us; if you sense, as I sense, that the time is now to shake off our slumber, and slough off our fear, and make good on the debt we owe past and future generations, then I'm ready to take up the cause, and march with you, and work with you [today]. Together, *[we can] finish the work that needs to be done, and usher in a new birth of freedom on this Earth. [Thank you very much, everybody. Let's get to work. I love you, thank you.]

(筆者訳) もしも皆さんが私と一緒に、この途方もない探求の旅に参加してくださるならば、もしも運命の呼び掛けを感じているなら、そして私が見ているもの、つまり私たちの前に広がる無限の可能性を持つ未来を見ているなら、もしも私を感じているように、眠りから覚めて恐怖心をかなぐり捨て、過去と未来の世代に対する責務を果たす時が来たと感じているのなら、今日私はこの大義に取り組み、皆さんと共に歩み出し、皆さんとともに働く覚悟ができています。一緒に行えば、なすべき仕事を終わらせて、この地球上に新たな自由を誕生させることができるのです。[皆さん、有難うございます。仕事に取り掛かりましょう。愛しています。有難う。]

《解説》*[we can]、原稿では starting today, let us finish...となっている。

5. オバマの話し方の特徴

本学の非常勤講師でアメリカでジャーナリストとしての経歴のあるティム・フィニー氏に、オバマのスピーチ・スタイルの特徴を尋ねると、「カジュアルな話し方から始め、時に学者のような話し方をする。また、アフリカ系アメリカ人の牧師を彷彿とさせる時がある。」 Let's be the generation...” (㉑参照) の繰り返しの最中に、観衆が反応していたが、黒人が多く集まる教会

で牧師がよく使うレトリックであり、そのやり取りと似たような光景だ。歌手のようにリズムカルに声を上げる時もそうだ。よい例が”I stand before you today to announce my candidacy for President of the United States.”（⑨参照）。聴衆と一体となる初期の彼の姿をアメリカのマスコミはロックスターと称したという。彼は聴衆のエネルギーを吸収し、増幅させるが、時に教師のように振る舞い聴衆を黙らせ大事なポイントを語る。歓声が飛び交う中さらに声を張り上げる時もある」（2008年11月21日）。

スピーチは、直前の映像では、Look at all of ‘ya’ とカジュアルに語りかけ、次に all of ‘you’ とフォーマルに切り替わり、聴衆との掛け合いをしぼらくしてから始めた。終始明るく振る舞い、威風堂々とした姿勢で夢と希望を与えてくれそうだ。爽やかに、余裕すら感じられるほどオバマは支持者の心を掴んでいる。時々”I, I”や”was, was”などと、「どもる」ことも見せたが、かえって親しみを感じる。日本の政治家の演説になると動員で嫌々参加して、早く終われと願っている支持者がいるが、正反対に、オバマと一緒に国家の変革に参画したいとの熱気が伝わってくる。プロンプターの画面も映し出されているが、それをちらちら見ながら話しているようすも見受けられない。さほど多くのアドリブもなく、予定原稿を読み切った。原稿に忠実にスピーチをしても随所に聴衆との小気味いいやり取りがある。

リンカーンのスピーチも特に大統領就任演説などでは聖書からの引用が多いために、また話しぶりからも教会での説教を思わせると言われた（⑩参照）。その意味で両者のスピーチのスタイルに一脈通じるものがあるのか。スピーチの最後の”Together, starting today, let us finish the work that needs to be done, and usher in a new birth of freedom on this Earth. Thank you very much, everybody. Let’s get to work. I love you, thank you.”（⑪参照）の件は、聴衆と一体となったオバマが、高揚して声を張り上げている。そのシーンは、黒人牧師の説教であり、ロックスターの叫びであるかのように映った。

おわりに

「リベラルのアメリカも保守のアメリカもない、あるのはアメリカ合衆国だ。黒人のアメリカも白人のアメリカもラテン人のアメリカもアジア人のアメリカもなく、ただアメリカ合衆国があるだけだ。イラク戦争に反対した愛国者も、支持した愛国者も、みな同じアメリカに忠誠を誓うアメリカ人なのだ」と。2004年7月の民主党大会でオバマの行ったスピーチが一躍彼をスターダムへ押し上げたといわれる。「米国政界に久しぶりに登場した清廉なイメージを持つ人物として、人々の期待を一身に集めてきた。彼は一夜でアメリカの政治の舞台に躍り出たかのようだった」（ロガック、2007）。スピーチの出来不出来は、たとえ専属のスピーチライターの恩恵は計り知れないにしても、話し方やジェスチャーや声のトーン、演出方法など様々な要素が複雑に影響し合ってくる。『リンカーンが米国の統合を訴えたこの議事堂の前で、私は大統領選に出るために、あなた方の前に立っている』。零下10度以下の刺すような寒さの中、スプリングフィールドでは、会場となった旧州議事堂のまわりには、早朝から厚着した人々の長い列ができた。午前10時すぎ、オバマ氏は黒いコート姿で現れた。この一言に、凍えていた聴衆から大きな拍手と歓声があき上がった。奴隷制で南北に分裂した米国を憂えたリンカーンを引き合いに出したのだ（『朝日新聞』2008年2月12日）。出馬表明演説では、具体的な政策を並べたスピーチではなかったが、イリノイ州スプリングフィールドの地を選び、アメリカ人なら多くが尊敬するリンカーンとキング牧師のスピーチを引用し、改革を訴える彼のパフォーマンスには計算つくされたメッセージが

込められていた。どこかの国の、官僚が書いた作文を棒読みしている政治家とは完全に異なり、言葉を借り物ではない自分の言葉にして使っている。

「リンカーンは『言葉には力がある』と教えている」とオバマは語る。言葉の力をアメリカ国民は建国以来信じてきたことを彼も心底信じているのだろう。オバマ次期大統領には分かりやすい言葉で誠実にアメリカ国民と世界の人々に話かけてもらいたい。失言を繰り返し、言い逃れに終始して、建設的な発言を避けて通る政治家ほど哀れなものはないが、一番不幸なのは国民である。リンカーンに代わりオバマに「言葉には力がある」と我が国の政治家たちに教えやってほしい。

引用文献

- 『朝日新聞』2008年11月7日。
『朝日新聞』2008年2月12日。
ウォレン、R.P. (田中啓史訳)『南北戦争の遺産』本の友社、1997年。
オバマ、B.H. 『The Audacity of Hope』Random House、2006年。
『The New York Observer』2008年7月25日
『The Washington Post』2008年10月6日。
斉藤真紀子『アエラ』2008年11月24日朝日新聞出版、2008年。
新教出版社編年「聖書辞典」新教出版社、2001年。
鈴木健『大統領選を読む』朝日出版社、2004年。
Senator Barack Obama's Announcement for President 出馬表明演説、2007年
http://www.barackobama.com/2007/02/10/remarks_of_senator_barack_obam_11.php。
高木八尺・斎藤光(訳)『リンカーン演説集』岩波書店、1988年。
西塚裕一『大統領の履歴書』笠倉出版社2008年。
Barack Obama and Joe Biden The Change We Need オバマ公式ホームページ2008年
<http://www.barackobama.com/index.php>。
伴和夫『マーティン・L・キング』桐原書店、2008年。
『毎日新聞』2008年11月22日。
村上龍『Japan Mail Media』2008年2月17日
http://www.jmm.co.jp/dynamic/report/report3_1017.html。
『読売新聞』2008年2月7日。
ロガック、R. (中島早苗訳)『オバマ語録』アスペクト、2007年。